

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 70 号 (H29.5.22)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 今年の宮崎は、例年より 5 月の天候に恵まれ、明るい青空にからつとした湿度の月となっています。新緑が鮮やかで、色とりどりの花が咲き誇っています。皆様の地域ではいかがでしょうか。沖縄、奄美ではすでに梅雨入りとなっていますが、梅雨入り前の心地よい天候を楽しみたいですね。

今回は、現地から山元香代子先生の報告と、巡回診療に同行した研修医さんからの報告等をお伝えします。

＊宮崎市青島亜熱帯植物園園庭→

賛助会費納入及びご寄附のお願い

・認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業は、皆様からの賛助会費並びにご寄附により運営されています。事業年度は毎年 1 月から 12 月です。賛助会費は個人一口 5000 円、団体一口 10000 円からとなっており、ご寄附につきましては金額を問いません。

・郵便局まで足を運んでいただくというお手間をおかけしますが、ご協力のほどなにとぞよろしくお願い致します。

・WEB 口座をお持ちの方はインターネットからも振込みができます。各銀行等にお尋ねください。

・入金を確認しました際には、日高から御礼のメールを差し上げます。また当法人は認定 NPO 法人であり、ご寄付(賛助会費含む)いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書(賛助会費も寄附金と同様税控除の対象)をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高 (info@ormz.or.jp) までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称 (全角) : トクヒ ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ



現地活動報告 (ザンビアより山元香代子先生)

みなさま いかがお過ごしでしょうか。日本はゴールデンウィークも終わり、すごしやすい穏やかな天候が続いていると思います。

こちらは、いいお天気が続いています。昨年今頃は停電が多くたいへんでしたが、今年は停電もなく、いつでもプリンターで書類の印刷もでき、お湯も沸かすことができ、ありがたいです。断水はありませんが、水圧が低いことが多く、給湯器は使えず、貯めた水で行水をしています。

4 月 19 日はニャンカンガでの巡回診療でした。まだぬかるんだ道路のため迂回路をとりました。新しい地域保健委員会の長が選出されたらしく、多くの地域ボランティアが出迎えてくれて、とてもうれしかったです。154 名の患者を診察し、マラリア陽性は 152 名中 37 名(24%)。昨年の同時期の 188 名(65%)と比べて大きく減少していて、やはり大雨の影響かと考えました。皮膚疾患が 25 名と多かったです。近くの(車で約 1 時間)のヘルスポストから 2 人のスタッフが出向いて予防接種を実施していました。

ルアノ地区に整備している2つのトイレも途中まで出来上がっていましたが、セメントが足りないらしく、次回セメントとトタン屋根を届けることを約束しました。



4月26日はルアノでの巡回診療。患者数は68名と少なく、マラリア陽性は64名中14名(19%)。昨年の今頃は61名(52%)でしたので大きく減少しています。昨年11月のマラリア蚊の殺虫剤噴霧の効果もあるのでしょうか、やはり天候の影響も大きいと考えます。途中でスプリングコイルが折れて落下しましたが、特に車に大きな問題はありませんでした。シェレニ村の人々が村長の号令のもと草や木を伐り、新しい道路を開き、多くの岩や石ころを除き、道路状況が大きく改善していて、感謝の気持ちでいっぱいでした。宮崎の研修医1人、三重大、藤田保健衛生大の医学学生4人が同行して、仕事を手伝っていただきました。ありがとうございました。ルアノの往復で、あちこちの道端に9名の患者が待ちかまえていて、9人中4人がマラリア陽性でした。

5月5日はサンダラでの巡回診療。またしても1台のランクルが泥にはまってしまいましたが、大事に至らず牽引で抜けることができました。患者数は164名。マラリア陽性は163名中83名(51%)と多く、兄弟ほとんどが陽性といった家族が見うけられました。サンダラはチサンバ郡のルアノに属しますが、境界に接するルアノ郡などの他の郡の患者も多くみられました。この辺りはこれまで診療を実施していたルアノの中心部から更に車で1時間以上かかる地区で、学校もなく、子供たちの多くは全く教育の機会がないとのことでした。巡回診療も12月から開始してまだ5回目です。できることから少しずつやっていきます。5月末に予定しているコミュニティヘルスワーカーの研修にこの地区から4人が参加します。彼らが少しずつ力をつけて、マラリアの患者をきちんとみていけるようにしたいと考えています。ルアノ郡の議員からルアノ郡でも巡回診療をとの手紙が届きましたが、現状ではとてもむずかしいです。



4月21日からJICA基金を使って、ルアノでマラリア蚊の殺虫剤噴霧を開始しました。サンダラ地区に着く前に1台のランクルの前輪が外れ、全く動けず、1台でサパニ地区の35戸の噴霧を済ませルサカに戻りました。動けなくなったランクルには3人を残し、野宿になりました。22日にもう1人の運転手が壊れたスリーブハウジングの替えをルサカでみつけルアノに向かいました。何とか修理できましたが、帰り道もう1台のリーフスプリングのUボルトがはずれ、またしても修理。徹夜で徐行しながらルサカに到着したのは23日の昼過ぎでした。車の修理を万全にして、4月27日から5月2日まで5泊6日で噴霧を実施しました。マットレスをヘルスセンターから借りる予定でしたが、借りることができず、6人の内4人は車中泊となりました。車も大きな問題はなく、217軒 376戸の噴霧を実施できました。マインガ地区のみ連絡が届いておらず、噴霧が実施できませんでした。そのため5月15日にマインガや道路状況が悪く行くことのできなかつたサンダラの数軒を含め、再度実施の予定です。5月17日はニャンカンガの巡回診療、19日はニャンカンガではじめての噴霧と来週は忙しくなりそうです。車の調子が悪くならないことを切に願っています。



あれもこれもと気持ちだけがせいでしまい、報告書が遅れてしまいました。申し訳ありません。みんなで励まし合いながらがんばって仕事をしています。これからもみなさまからの支援をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

殺虫剤噴霧事業や巡回診療に同行して(県立宮崎病院研修医さんからの報告です)

◎マラリア蚊殺虫剤噴霧活動、巡回診療に同行させていただいて(県立宮崎病院 研修医 山口亜希)

始めに、今回 ORMZ の活動に同行させていただき、山元先生はじめドライバーやクリニカルオフィサー、助産師、コミュニティヘルスワーカー(CHW)の方々に感謝を申し上げます。

4月21日、サパニ地区でのマラリア蚊殺虫剤噴霧活動に参加させていただきました。朝3時頃にルサカを出発、街を離れると赤土の凸凹道に変わり、本当に車が走れるのかと疑問に思ってしまう程の岩道を走り、さらにはまだ水の流れる川をいくつか渡りました。片道6時間程度を走り、ようやく到着かと思ったところ、ランドクルーザー2台のうち1台がぬかるみにはまり、左前方のタイヤが外れてしまいました。直ぐの復旧は不可能で、数人は車の修理のために壊れた車に残り、残り1台に7人がぎゅうぎゅうに乗り込み、急遽できる範囲での蚊殺虫剤噴霧を行いました。

家屋は草木が生い茂る場所にぽつぽつとそれぞれ離れた場所に点在し、家の中の物を外に出してもらった状態で、壁に殺虫剤を噴霧していくという地道な作業で、その日は約40戸行いました。去年も噴霧を行なったにも関わらず、マラリア検査はその日は33人中22人(67%)が陽性でした。家屋というのは、土壁でできているのは良いほうで、藁でできている家も多く、ほとんど外と繋がっているため、蚊は容易に入って来る状態です。そのような家屋で果たして殺虫剤がどれほどの効果を期待できるのかははっきりとは分からず、その中で活動されることの困難さを感じ、また、1人でも多くの命を救うべくマラリア感染を未然に防ぐために活動される姿に感銘を受けました。



ルアノ地区の家

また、その日以降の殺虫剤噴霧活動として、4月27日、現地の方だけで殺虫剤噴霧活動を行うため、車に薬剤や噴霧のための道具、5日分の食料、車で寝泊まりするためのブランケット等を詰め込み出発しました。5日間で450件の噴霧を行う予定で、ルサカに到着するのは5日後の予定とのことでした。山元先生が日本での診療のため不在中でも、スタッフが共同して、巡回診療や殺虫剤噴霧を行っていること聞き、物品や金銭を与えるだけではなく最終的に現地の人たちで自立して活動できるように、共に協力しながら活動されている様子が伺えました。「彼らの協力のおかげ」と先生もおっしゃっていたように、支援がなくなったとしてもその国が自立できるように、現地の方々との継続的な連携の大切さを学びました。

ちなみに故障した車についてですが、もう1台の車で必要な部品を街で購入して車が故障した場所へ戻って直したところ、今度は無事だった車も不具合が起き、ルサカに車が到着したのは2日後の昼間だったとのこと、山元先生はもちろんのこと、スタッフの努力や大変さも半端じゃないなと思いました。

4月26日にはルアノ地区での巡回診療に同行させていただきました。前回同様、石と岩で出来た凸凹道を進み、途中、今日が診療と知っている方に、発熱している子供がいると車を呼び止められ、マラリア検査をし、陽性の患者には抗マラリア薬を渡しました。2件ほど呼び止められ、6時間後にようやくルアノに到着しました。多くの患者さんが待っておられ、クリニカルオフィサーや助産師、CHWの方々がルサカから運んできた医療器具や薬品、マラリア検査キットなどをてきぱきと準備されていました。



妊婦健診の様子

土壁で出来た2つの小さな小屋に受付、診療室、妊婦健診室、薬剤配布室がそれぞれあり、少し離れた大きな木の下に体重計をかけ、小児の健診をしていました。

受付には4000人以上のノートがカルテとしてコンテナに詰められており、受付でカルテを渡し、健診・妊婦健診・診察等に進んでもらいます。

その日は100人近くの患者が診察を受けにやってきました。前回は180人程度だったとのことで、それでも少なかったということでした。主訴を聞き、聴診器をあて、丁寧に診察されていました。もちろん、血液検査等の検査ができない中、見て聞いて触るといった診察の基本の重要性をひしひしと感じさせられました。

山元先生は2011年から診療活動をされ、約6年間もの間このような活動を継続されているということで、先生のご活動はこれまでも日本で耳にすることはよくありましたが、実際に拝見させていただくと、想像を超える苦勞で、感無量でした。地域とともに歩いていく姿勢と、困難に対しても強い思いを持っていらっしゃる姿は是非とも見習い、私も今後、日本の僻地で医療に携わる中で、参考にさせていただきたいと思いました。

くれぐれも体調を崩されることのないようご自愛ください。先生をはじめとしたORMZのスタッフの方々の活動が今後も継続され、ザンビアの地域の方々の健康が維持されますことを願っています。

ザンビア情報（在ザンビア日本大使館 HP からの転載情報）

◎平成25年度無償資金協力「ルサカ郡病院整備計画」（供与限度額19億9900万円）により完成したマテロ病院の開所式（平成29年5月4日掲載）

4月22日、平成25年度無償資金協力「ルサカ郡病院整備計画」（供与限度額19億9900万円）により完成したマテロ病院の開所式が、ルング大統領を主賓として開催され、側嶋秀展駐ザンビア大使他、被招待客及び地域住民等約700人が出席しました。

ルサカ郡は約250万人の人口が集中する地区ですが、高度の保健・医療サービスを提供する医療機関が1つ（University Teaching Hospital：第3次病院、以下UTH）しかなく、住民の多くが必要な保健・医療サービスを受けることができない状況にありました。このような医療環境を改善するため、我が国は無償資金協力によりルサカ郡のマテロ及びチレンジェのヘルスセンターにおいて、病棟の新設と医療機材の整備を行い、両ヘルスセンターは病院（第1次病院）に格上げされました。

病院の完成により、帝王切開などの手術が行えるようになり、今後はUTHにこれらの手術依頼をする必要がなくなるため、UTHにおいては大幅な混雑緩和が実現します。また、両病院において、各家庭の近くで、質の高い基礎的医療が受けられることにより、患者の負担も軽減され、乳幼児死亡率及び妊産婦死亡率の面を含め、健康の増進について大きな改善が見込まれています。



* 医療体制がさらに整備され、その恩恵が多くの人々に広まるとよいですね(事務局)

以上

平成29年もORMZへのご支援のほど、どうぞよろしく申し上げます